

聚楽亭じゅらくていの旧地きうちは一条の南二条の北にして、東は大宮を限り西は朱雀通しゅじやく〔今の千本通せんぽんなり〕を堺とす。太閤秀吉公たいかふひでよし天正十三年に城郭を築き、壮麗にあらざるば威を重ずる事なしとて、殿閣には七宝を鏤名木奇石をあつめ、秦しんの阿房宮前あぼうきうぜん漢かんの未央宮にもおとらざるの宝閣なり。同十六年四月行幸ありて和歌の御会御能などあり。其後関白秀次公くわんぱくひでつぐこゝに住給ひしが、文禄四年の滅亡より楼閣こゝかしこの寺院にわかれて、今は聚楽じゅらくの名のみ遺り、町の惣名となりぬ。〔聚楽組と号する町数凡百二十町あり〕